

研究課題	子どもの言語活動を支えるタブレット端末の活用
副題	～カフト、電子図書館、ふりかえりのクラウド共有を軸として～
キーワード	カフト、電子図書館読み放題パック、クラウド
学校/団体名	公立東大阪市長若江小学校
所在地	〒578-0943 大阪府東大阪市若江南町 2-9-54
ホームページ	<a href="https://school.higashiosaka-osk.ed.jp/wakae-e/">https://school.higashiosaka-osk.ed.jp/wakae-e/</a>

## 1. 研究の背景

「子どもたちの言語活動を推進させたい！」私は校長として本校の教職員に強くうったえた。

本校は大阪府の中心部に位置し児童数 486 名で創立 150 年を超える伝統校であるが、子どもたちの学力面では伸び悩んでいる。全国学力学習状況調査の平均正答率は、昨年までの 5 年間、国語算数共に全国平均や大阪府平均、東大阪市の平均に一度も届かない。また子どもたちのコミュニケーション能力の不足が起因で児童間のトラブルや問題行動が多発していた。そこで私は R5 年度末に「子どもたちの言葉の基礎体力」をつけようと教職員にうったえ、学校全体で読書活動の推進を目標に掲げた。また R6 年度に大阪府教育庁より「学校図書館の活用充実のためのモデル校」※1 として研究指定を受け、R7 年度も引き続き大阪府教育庁より「言語能力の育成」をテーマに研究指定を受け、研究促進の追い風となった。さらに貴団体も研究助成をいただき、全教職員が一丸となって、カフトや電子図書館子、ふりかえりのクラウド共有を軸として、児童 1 人 1 台のタブレット端末の有効活用に取り組んだ。



カフトを使った授業風景

## 2. 研究の目的

**研究目標**：「児童 1 人 1 台の端末を有効活用させ、子どもの言語活動を推進する」

上記の目標達成のために、次の 3 点の取り組みを重点的に進めた。

**(1) 自作クイズ作成アプリのカフト (Kahoot!) を使って教員や児童が相互に問題を作成・共有し実践を進めた。**

本校はカフトの授業活用について東大阪市内では先進校であると自負している。これまでの実績をふまえ、子どもたちにもタブレットでクイズ問題を作成させ、その問題作成や交流を通して言語能力の向上を図った。

**(2) 紙の書籍と併用して電子書籍の活用を進めた**

蔵書数の少ない図書室を、追加購入の紙の書籍や電子書籍で補充し、子どもたちの読書量を増やし、読書意欲と言語能力を高めた。

**(3) 授業のまとめのふりかえり (学習感想) を学級単位で Google スプレッドシートを使ってクラウド上で管理し共有させることにより言語能力を高めた。**

授業のふりかえりの時間に他者参照の時間を確保することにより、子どもたちに自分のふりかえりが友達にも見られることを意識するようになり、質の高い記述ができるようになった。

3. 研究の経過

表 1：研究の経過

月日	内容	備考
4月9日	・職員会議で校長から本研究のねらいを全教職員に周知。	
4月14日	・学力向上部会で取り組みの詳細について意思統一。(※同部会は毎月定例で開催)	
5月1日	・「今月のカフート」発信開始(※以後毎月発信)	
5月9日	・市教委より講師を招いて教職員研修を実施。	講師：市教委指導主事
5月29日	・2年国語科、6年体育科で校内研究授業を実施	指導助言者：市教委指導主事
6月17日	・言語活動の充実を意図した校内研究授業を1年生活科、4年国語科で実施。	指導助言者：曲里由喜子(元奈良教育大非常勤講師)
6月24日	・大阪府教育庁より講師を招いて、言語能力の育成についての校内研修を実施。	指導助言者：府教委指導主事
7月1日	・石川晋氏の3年国語科「オノマトペ」の師範授業を見学。	講師：石川晋(NPO法人授業づくりネットワーク理事長)
7月11日	・3年国語科、5年国語科で校内研究授業を実施	指導助言者：市教委指導主事
8月6日	・全国学力調査の分析を校内研究で実施。	
9月18日	・学力向上部会で1学期の実践のふりかえりと今後の予定について討議。	
10月20日	・石川晋氏を招いて言語活動の充実についての校内研修を実施。	講師：石川晋(NPO法人授業づくりネットワーク理事長)
11月12日	・研究成果発表会を開催。全学年での授業公開と、実践報告、講演会を開催。	講師：曲里由喜子(元奈良教育大非常勤講師)
11月15日	・JAET 茨城いばらぎ全国大会の部会報告で、本研究の中間報告を発表。	報告者：野々村礼二(本校校長)
11月23日	・エンタクフォーラムで、本校教員が実践報告	報告者：山中祐介(本校教諭)
12月4日	・人権教育をねらいにジェンダーの視点から「ことばの使い方」の校内研修を実施。	・講師：田中一步(にじいろi-Ru代表)
12月26日	・研究の中間総括。	
1月30日	・先進校視察、八尾市立大正小の算数公開授業を見学。	
2月17日	・研究成果の総括会議を開催。 ・報告書作成開始。	

#### 4. 代表的な実践

以下に本年度の主な実践について、3点報告する。

##### (1)カフト(Kahoot!)の活用推進について

本校は、以前より同アプリを校内の全学級で実践してきており、教職員はもとより児童も GIGA スクールで貸与されている iPad を使って問題を作成し、校内の教職員グループで編集・作成した問題について共有している。

本年度も、国語や算数、理科、社会、生活科や総合など、多種多様な内容で問題を作成した。児童がタブレットに問題を入力する場合に、基本的には入力方法は自由に行っているが、前年度まではスマホ画面のような「フリック入力」や「ひらがなの 50 音表からの入力」が多かったが、本年度になってキーボードを接続してタイピング入力する児童も目立つようになった。文字入力が早くなるにつれ、文章の記述内容についても深く厚く向上していったのは言うまでもない。

このカフトの活用について、今年の JAET 茨城いばらぎ全国大会で実践報告した際に「子どもたちのタブレットにインストールされている無料版のカフトでは、問題は 5 問以内であるとか、問題や解答の表示方法や編集のオプションに制限がある。複数の問題を統合したり、編集したりするには一定の課金が必要となるが、それはどのように支出しているか？」との質問があったが、「本校では教職員のうち 2 名分は年間登録料を研究助成金の中から支出している。私自身、実践を重ねるなかで授業中の子どもたちの笑顔が嬉しくて嬉しくて仕方がないので、次年度以降は自腹を切っても続けます。」と返答すると、ウンウンとうなずく参加者も見られ、カフトの活用が全国的に広がってきているのを実感させられた。



JAET 茨城つくば大会で発表

カフトについては、学校内の授業時間内での実践にとどまらず「今月のカフト」として、毎月月初めに学年別の問題の PIN を学校の HP でいくつか提示し、放課後や家庭学習の時間にもできるようにした。なかには、保護者の方も子どもと一緒に参加されて親子で学習している家庭もあった。

しかし本年度、問題事象もひとつ生じた。参加者の中に時折、他人を誹謗中傷するようなニックネームで参加する者が出てきたのだ。もちろん、クイズの管理者(校長)が始終目を光らし、悪意のある参加者については即日削除したが、別の端末を使ってまた同じ手口をする輩もいた。

そこで 6 月以降は「ニックネームジェネレーター」を使ってニックネームは無作為にルーレットで決められる方式に変更した。同時に子どもたちには、その変更理由をネット上の情報モラルの一例として話しをした。さらに 2 学期後半以降は、クイズの PIN 番号を web 公開することは止め、校長室前の掲示板に PIN 番号と QR コードを掲示することにして、ニックネームもオリジナル入力できるように戻した。その結果、現在では子どもたちは中休みやお昼休みに校長室に遊びに来るときにタブレットも持参し、カメラで QR コードを撮って安全に楽しくクイズにのぞむようになった。

## (2)電子図書館の活用推奨について

前述のとおり、子どもたちの言語活動の推進をめざして学校図書館の有効活用を進めてはきているが、いかんせん蔵書数には限りがある。そこで本校では全学級で「東大阪電子図書館」を、全面的に推奨した。本市に在住在学在勤にあるものは「東大阪電子図書館」に個人IDを付与してもらえるので、ネット環境さえあれば子どもも保護者も、いつでもどこでもタブレットを使って読書ができる。さらに本年度重点的に進めたのは「読み放題パック」である。これは、同時に何人でも一緒に読めるので、友達や保護者と一緒に同じ本を読み始めることができるし、途中で感想を言いあってますます読書が楽しくなっていく様子であった。本校では「朝の読書」の時間があるが、以前は大多数が紙の本を読んでいたが、最近ではタブレットで電子書籍を読む子と紙の本を読む子が半々くらいの割合になってきた。

1年生の読書の時間は当初は「読み聞かせ」で、教員や図書館司書が教室で1冊の本を読むのを子どもたちがぐるりと囲んで座って聞くというのが主体であった。その後、ひらがなの学習をひととおり終わると、子どもたちはすぐに学校図書館の絵本を競って読むようになった。電子書籍の中でも絵本は人気であった。その中でも新井洋行著の早口言葉絵本「もももすもも」<sup>\*2</sup>は特に人気があり、入れ替わり立ち替わり子どもが閲覧していつも貸し出し中の状態が続くほどであった。さらに学級レクリエーションで、この絵本の中の10種類の早口言葉を3回ずつ読み合うのをストップウォッチで計測して楽しんでいるクラスもあったので、これまで体育のスポーツテストの時以外に眠っていたストップウォッチの電池を入れ替え、学級全員が2,3人1組で早口言葉の所用タイム計測ができるようにした。もちろん、子どもたちの話す力と読む力の向上につながったのは言うまでもない。

また、昨年度に貴財団から研究指定いただいた「電子書籍読み放題サービスを活用した学校図書館教育の充実」<sup>\*3</sup>のスタートアップセミナーで、放送大学の佐藤幸江教授から「子どもの読書意欲の向上をめざすなら、電子書籍だけでも紙の本だけでもダメ。両方を推奨してこそ、結果が出てくるはずだ」との指導助言をいただいたのを本年度も活かしており、助成金で追加購入する紙の書籍については子どもたち向けの本はもとより、教職員が読みたい本についても精査したうえで積極的に購入し、教職員の誰もが閲覧できる職員室内の蔵書も充実させた。また公費では購入できない古本についても、古本屋で多数購入した文庫本や単行本などを書架に並べると、担任の先生がその文庫本を持って自分のクラスで読書の時間に読んでくれていた。私が廊下を巡回しながら教室の様子を眺めると、前の教卓で担任の先生が小さい文庫本を笑顔で読んでいる。その表情は子どもたちからもはっきりと見えていた。

「読書の時間は静かにしましょう」などと注意する必要もなく、担任の先生笑顔を見ながら子どもたちは、絵本や児童書から文庫本やハードカバーの単行本への興味を示している様子であった。6年生のクラスでは、担任の先生が読み終えた本を「私にも貸して読ませてください。」とねだっている児童もいた。

今後も、紙の本と電子書籍の併用を奨励し、子どもた



朝の読書の時間の様子

ち（教職員も）の読書意欲を引き出し、言語活動の充実に努めたいと思う。

### (3)ふりかえり（学習感想）のクラウド共有について

本校ではこれまで授業後のふりかえり（学習感想）について、ロイロノートを使って周りの子どもたちの意見や感想を電子黒板で全体提示し、順番に他者参照していくという実践が多かった。自分の意見をタブレットに記述するうえで、友達の見解も参考にしていくという授業スタイルはすでに定着しつつあった。

本年度は、次年度に控えた GIGA スクールの機種更新に伴い、本市は iPad からクロームブックに変更され、ロイロノートの記録が引き継がれるかどうか不確定なため、クロームブックで使用する Google スプレッドシートにふりかえりを記述させる授業も試験的に進めた。

スプレッドシートは表計算ソフト風の画面なので、これまでのロイロノートのカードを1枚1枚選んで見るより、短時間で多くの意見を見ることができた。また教科ごとにふりかえりをブック形式でクラウド保存しているため、過去の自分のふりかえりについてもすぐに参照することができた。



スプレッドシートで他者参照する

また本年度は、生成 AI 活用の研究もスタートさせた。1年生生活科の授業で子どもたちが書いたふりかえりについて、生成 AI にも参考意見として評価を聞き、教師が確認したうえで子どもたちに紹介するという授業も実践した。当該教員は研修で学んだ内容について、校内で伝達研修を行い生成 AI についてのガイドラインを周知したうえで、最終的な評価は授業者（人間）が行うという基本スタンスについても全教職員で意思確認した。

子どもたちは、生成 AI からの評価は圧倒的にほめ言葉のシャワーが多かったため、大喜びしており、より質の高いふりかえりを書こうと前向きになっていた。

## 5. 研究の成果と課題

当初目標にした3つのルーブリックについての結果は以下の通りである。

表 2：研究目標とその結果

東大阪市標準学力調査の 5 年生 国語算数の基礎問題平均正答率の 1 割 UP。 (R6 年度の平均正答率は、国語 73 %、算数 63 %)	
R7 年度の平均正答率は、国語 68%、算数 67%であった。	判定：C
校内でのカフートの開催回数を毎月平均 30 回以上。(R6 年度は 1 ヶ月平均 21 回)	
校内のトップ教員 3 名だけでも 1 月平均 31 回を達成。	判定：A
教員アンケートの「子どものふりかえり記述に質の向上が感じられた」で 8 割以上の肯定回答	
肯定評価は 61%にとどまった。	判定：C

ちなみに上記項目以外にも、今回の取り組みを進めるにつれて実践の副産物として、次のよう

な成果が得られた。

まずは、毎月定例で本研究の進捗状況の確認をテーマとした学力向上部会を、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気できつくばらんに自由に意見を言い合える場として開催することにより、堅い会議のイメージがガラリと変わって井戸端会議のようなムードで話し合うことができた。

例えば、これまで高学年の国語科のリスニング問題の練習として、学校にある桂枝雀さんの落語を聞かせて、聞きながら斬の内容や情景などの情報を理解する聞き取りの力を養う授業を取り入れてきたが、今年度は新たに桂文珍さんの落語の DVD や書籍も購入し聞き取りをさせた。すると子どもたちにとっては標準語よりも関西弁の方が理解しやすいようで、すんなりと情報が楽しみながら頭に入っているようだった。映像世代の子どもたちは、視覚情報が中心で聴覚情報が弱い傾向にある。中学校では英語の授業で英語落語の教材も扱われている。教員の話芸の向上ものぞめるので、次年度も継続して実践を進めたい。

このような実践を和気あいあいと情報交換することにより、教職員相互の仲間意識の向上につながった。これは、例えば問題行動やいじめ不登校などの生徒指導事象に対応する時にでも、チーム学校としての意識で対応できることにもつながり、非常に有効であった。

また、研究助成金を活用して、公費研修だけではなかなか招聘できない NPO 授業づくりネットワーク理事長の石川晋先生や、図書館教育指導講師で元奈良教育大非常勤講師の曲里由喜子先生や、ジェンダーの立場から言葉の使い方を考えさせていただいた、にじいろ i-Ru 代表の田中一歩先生など、幅広い講師陣を校内の教職員研修に招くことができ、大いに教職員の資質向上につながった。

併せて、11月12日に開催した本研究の発表大会では、支援学級も含めて全学年で公開授業を実施し、本市だけでなく大阪府下から多くの教職員に参観いただいた。授業後の研究協議ではたくさんの方の叱咤激励を受け、授業を担当したそれぞれの教員からは大きな達成感と自己有用感に満たされた表情をうかがうことができた。

これまで大きな研究発表大会について、校長会で意見を交わすと「教員の働き方改革を考えると、あまり負担となるような業務を強いるのには抵抗がある」という意見をしばしば聞くが、私はそうは思わない。むしろ、教職員に大きなヤマを乗り越えることを経験させることによって、教員ひとりひとりの資質と業務に対しての誇りが膨らむものと考えている。一歩間違えれば、パワハラ校長とのそしりを受けかねないが、私は今後も校長としてのリーダーシップを発揮して、意欲的に教育実践に取り組んでまいりたいと考えている。

## 6. 今後の展望

今年度の研究実践は、大阪府教育庁と東大阪市教育委員会の研究指定やパナソニック教育財団様の助成金を得られたため、人的・経済的な支援に恵まれスムーズに進めることができた。

しかし次年度以降は、同様の支援が獲得できるかどうかは現段階では全くわからないが、それでも全教職員で力を合わせて、GIGA 第 2 クールの新しい情報端末を有効利用して子どもたちの言語活動を支援していこうと考えている。

人間が地球上の他の種と明らかに異なるのは、火と文字を自由に使える点である。我々の文明を支える文字の大切さを、しっかりと次世代の子どもたちに伝えたいと思う。

また教育実践の情報発信についても、校長本人が JAET 茨城つくば大会で研究の中間報告をさせていただき大いに刺激を受けた。またエンタクフォーラムで発表した山中祐介教諭も、いい表情で発表の感想を聞かせてくれた。ぜひ、今回の研究実践をまとめて R8 年 10 月 30,31 日の JAET 全国大会高知・香美市大会でも本校から実践報告をさせていただきたいと計画している。

校長として本研究実践の総括役を担当した自分は教師生活 41 年、すでに還暦過ぎの老兵ではあるが、今後も少しでも若い先生方のやる気を伸ばせるような学校経営を探っていきたいと思う。

今回、このような拙い実践についても昨年に引き続き研究助成をいただいた「パナソニック教育財団」の関係者の皆様方に深く深く感謝し本稿を終えたい。本当にありがとうございました。

## 7. 参考文献

※1 野々村礼二 (2025) 「学校図書館の活用充実を柱にした学校運営」第 15 回 日本教育会「教育実践顕彰」優秀賞論文

<http://www.nihonkyouikukai.or.jp/content/files/R6-5oosaka.pdf>

(2026 年 3 月 1 日参照)

※2 新井洋行 (2018) 「もももすももも」講談社絵本

※3 東大阪市立若江小学校 (2025) 「電子書籍読み放題サービスを活用した学校図書館教育の充実」パナソニック教育財団研究成果報告書

[https://www.pef.or.jp/db v/pdf/2024/2024\\_26.pdf](https://www.pef.or.jp/db v/pdf/2024/2024_26.pdf)

(2026 年 3 月 1 日参照)